

特集

「小5 統一合判」  
中学入試レポート vol. 4

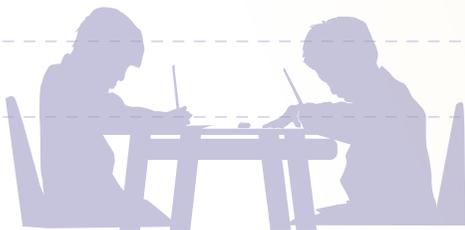
# 私学のグローバル 教育とは

～違いを認めて、  
協働する時代を生きていくために～

現代は、国や言語、文化、価値観の異なる人々と生活し、協働していくグローバルマインドが必要な時代です。

— そのような時代に中高時代を過ごすことで、人との出会いや異文化から受ける刺激は、大きなインパクト、大きな影響をもたらす経験になることがあります。グローバル教育には各校の特徴が表れるものですが、それは学校の体制であったり、プログラムであったりと、様々です。しかし、生徒の心に蒔かれる種となることは間違いありません。

— 中学受験で志望校を考える時、グローバル教育の実践は注目したいポイントになります。そこで今回は、私学のグローバル教育について事例を見ながら考えていきましょう。



首都圏模試センター

## 急激に変わる世界と教育

“俄かファン”という言葉がSNSのトレンドワード入りするほど、ラグビーワールドカップのあの興奮は、いまだ冷めやらずといったところです。競技の特性もさることながら、多国籍の日本代表がONE TEAMで戦ったことも注目されました。

オリンピック・パラリンピックが近づく東京の街を見渡せば、道路標識や案内板の日本語と外国語併記は日常の風景。日本全国での外国人労働者の増加、観光客の増加も、統計数字を待たなくとも、生活の中で誰もが持ちえる実感でしょう。

今年の9月には、スイスで氷河の消失を悼む葬儀が執り行われたというニュースもありましたが、記録的な豪雨、食卓レベルでも感じざるを得ない気候変動、地球温暖化は、一国の問題ではなく地球規模の課題です。またグローバル市場の成長に対して、世界経済における日本の競争力低下への懸念が叫ばれて久しい現実があります。

情報化のスピードは想像を超え、国際化も加速する今、先を見通すことは困難を極めます。だからこそ、グローバル教育の重要性は増し、「課題を発見し、他者と協力して解決していく資質や能力」が求められているのです。そのために、日本の教育を大きく変えるべく、大学入試改革が議論されてきました。

中学受験の推移を振り返ると〈図①〉、かつての中

学受験市場を押し上げていた要因、私立中高一貫校の大学合格実績や学習量の優位性とは異なり、ここ数年の成長曲線は、「学び方」の変化（＝探究）に拠ると考えられます。将来の社会の変化が日本の教育改革にドライブをかけている今、入試科目（選抜方法）の多様化にも、その一端は現れていますが、これらは入学後の学びと結びつけて語られるべきでしょう。

では次から、私立中高一貫校のグローバル教育に焦点を当てて見ていくことにします。

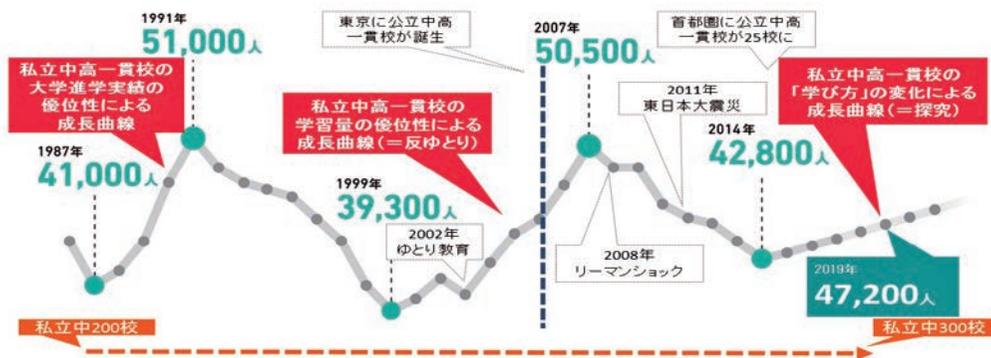
## グローバル教育を進める体制

グローバル教育を推進するために、中高一貫校では、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

### ■国際バカロレア

「国際バカロレア（IB）」は、国際的な教育プログラムです。国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が「グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するため、生徒の年齢に応じて教育プログラムを提供」（文部科学省IB教育推進コンソーシアムホームページより）しており、「探究する人・知識のある人・考える人・コミュニケーションができる人・信念をもつ人・心を開く人・思いやりのある人・挑戦する人・バランスのとれた人・振り返りができる人」を学習者像としてあげています。

2019年7月現在、世界では153以上の国・地域



〈図①〉



「このメンバーで（金賞を）取れたことがとても嬉しい」

●清泉女学院中学校音楽部の生徒。Nコンで最高賞を受賞した時に、マイクを向けられて



に5,000校、日本国内には146校の国際バカロレア認定校があります。

関東近辺では◎茗溪学園高等学校、◎開智望小学校、◎昌平中学校、◎開智日本橋中学・高等学校、◎玉川学園中学部・高等部、◎加藤学園暁秀中学校・高等学校など。●聖ヨゼフ学園(2020年より共学化)が認定に向けて準備を進めています。この10月には●東京家政大学附属がMYPの候補校となりました。

国公立でも、◎市立札幌開成中等教育学校、◎東京学芸大学附属国際中等教育学校などの認定校や、◎大阪市立水都国際中学校・高等学校や◎さいたま市立大宮国際中等教育学校のように申請準備、導入検討の段階にある学校も少なくありません。

ただ、学費負担やハードな内容、教員人材の点で拡大のスピードは早くはないようです。

## ■「国際」を意識したコース設置と語学教育

私立中高一貫校には、中学段階から「インターナショナル」、「国際」、「グローバル」などを冠したコースを設置している学校も少なくありません(次ページ表参照)。

「21世紀型教育」を実践する◎工学院大学附属は今、「グローバル教育3.0」を掲げています。AI、IoTのような新しい技術を使い、新しい価値を見出すこと、高度な文章を理解して意味を把握できるだけの語学力を身につけること、世界と教室を双方向でつなぎ、海外大学も視野に入れることとし、対話型授業(PIL)や、問題解決型授業(PBL)で、より高い思考力、判断力、表現力の育成を目指しています。また英語ではCLIL(内容言語統合型学習と訳されます)という、他の教科と連動して行われるオールイングリッシュの授業を行っています。これもPIL、PBLの型式で、学習の随所に創造的な取り組みを組み込んでいることがうかがえます。「ハイブリッドインターナショナルクラス」では、CEFRのC1英語を目指すカリキュラムとグローバル進学指導によって、

海外大学への進学が目標です。

●横浜女学院でもCLILを導入しており、英語4技能に「考える力」を加えた5技能を伸ばし、あらゆる問題を英語「で」学ぶ力を育てるべく、力を注いでいます。中学からスタートした「国際教養クラス」も、2021年からは高校でも始まる予定です。同校には、30年近く行われてきた中3全員参加のニュージーランドセミナーを始め、海外研修や留学制度が整っています。

## ■新しい潮流、ダブルディプロマコース

2016年に◎文化学園大学杉並高等学校でスタートしたダブルディプロマコースは、大いに注目されました。カナダ・ブリティッシュコロンビア(BC)州と提携し、文化学園大学杉並高等学校(日本)とカナダBC州政府の海外校である“BSCIS”(Bunka Suginami Canadian International School)の両方に在籍し、日本のカリキュラムと、英語で行われる現地と同じカリキュラムの教育を同時に受けられるというもの。高1次には3ヶ月のカナダ短期留学で、本格的にカナダの歴史・文化を学び単位を取得するプログラムもあります。これにより、卒業時には、日本で唯一、カナダBC州と日本の両方のディプロマ(卒業資格)を得ることができるのです。同校のダブルディプロマ1期生は、ICUや早稲田大学国際教養学部、海外大学(すべてトップ100)に複数名の合格実績を挙げました。2018年には中高とも共学化も果たし、中学にダブルディプロマ準備コースを設け、受験生からの支持を得ています。

2020年には、●麹町学園でもダブルディプロマプログラムが始動します。ニュージーランドの教育連携協定校への1年留学、またアイルランドの教育連携協定校への2年留学により、現地の卒業資格を取得するとともに帰国生枠での大学受験も可能となるプログラムです。●国本女子は、カナダ・アルバータ州教育省と提携し、“KAIS”(Kunimoto Alberta



International School) を開校、ダブルディプロマコース (DDコース) を開設し、中高6年間のグローバル一貫教育校を目指します。一方、●神田女学園はアイルランドのRockwell Collegeとダブルディプロマプログラム(DDP)を調印。DDP希望者は中学から高1までの間に英検準2級以上の現地アイルランドの受け入れ基準をクリアするなどの準備をし、高1の夏から約2年間のホームステイ生活を送ることになっています。「英語力だけではなく、現地での生活を有意義に過ごせるポジティブマインド」を求める、

いわば“現地型”を採用しています。

海外と日本の2つの高校卒業資格を得ることで、大学進学に際し国内外に選択の幅が広がることは大きなメリットです。英語で学び、グローバルな視点で物事を考え、多様さを受け入れる“ダブルディプロマ”は、グローバル人材育成のプログラムの一つの在り様を示しています。

### ■帰国生・国際生の存在

コースやプログラムを持たないまでも、帰国生や国際生と学校生活を送ることで、世界を意識し、多

## 「国際」「グローバル」を冠したクラス・コースを設置する私立中高一貫校 (※一部抜粋)

### 東京

- 大妻中野  
グローバルリーダーズコース
- 神田女学園  
グローバルクラス (全クラス)
- 昭和女子大昭和  
グローバル留学コース
- 聖ドミニコ学園  
インターナショナルコース
- 東京女学館  
国際学級
- 東京女子学院  
グローバルリテラシーコース (全クラス)
- 東京女子学園  
国際教養コース (2020年度より)
- 富士見丘  
グローバルアスリートコース
- 文京学院大学女子  
グローバルスタディーズ (中2～)
- 山脇学園  
クロスカルチャークラス
- 和洋九段女子  
グローバルクラス
- 京華  
国際先進クラス (中2～)
- 明法  
国際理解コース
- ◎郁文館  
グローバルリーダー特進クラス
- ◎開智日本橋学園  
グローバル・リーディングクラス  
デュアルランゲージクラス
- ◎工学院大学附属  
ハイブリッドインターナショナルクラス
- ◎駒込  
国際先進コース
- ◎玉川学園  
国際バカロレア (IB) クラス
- ◎広尾学園  
インターナショナルコース
- ◎文化学園大杉並  
ダブルディプロマ準備コース

- ◎三田国際学園  
インターナショナルクラス
- ◎明星  
MGS クラス (グローバルサイエンスクラス)
- ◎目白研心  
Super English Course(中3～)
- ◎安田学園  
特英コース (中3時より)

### 神奈川

- 鎌倉女子大学  
国際教養コース (2020年度より)
- 横浜女学院  
国際教養クラス
- ◎日本大学  
グローバルリーダーズコース
- ◎横浜翠陵  
グローバルチャレンジクラス (全クラス)

### 千葉

- ◎暁星国際  
インターナショナルコース
- ◎芝浦工業大学柏  
グローバル・サイエンスクラス
- ◎昭和学院  
インターナショナルアカデミーコース (2020年度より)
- ◎二松学舎柏  
グローバルコース

### 埼玉

- ◎春日部共栄  
グローバルエリートクラス (全クラス)
- ◎秀明  
スーパーイングリッシュコース
- ◎埼玉平成  
イングリッシュキャリアコース (中2～)
- ◎西武学園文理  
グローバルコース

### 茨城

- ◎土浦日本大学中等教育学校  
理系インタークラス
- ◎若溪学園  
グローバルコース

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、◎=共学校



「私は女子にしばられない。」  
 (●日本大学豊山女子が2017年から掲げるキャッチフレーズ)



様性を実現する学校もあります。

帰国生・国際生が在校生の30%強を占める◎啓明学園では、所属クラス以外に、異学年が「取り出し授業」で学ぶ「国際学級」があります。帰国生が約20%を占める●頌栄女子学院では、一学年5クラスのうち3クラスに分散させて一般生と混合クラスを作ります。同校は、「帰国生に、国際人としての資質を大切にしながら、日本人としての教育をきちんと与える」と説明しますが、様々なバックグラウンドの生徒同士が交わることで、「化学反応」が起こり学校が活気付いています。

## グローバル教育を進めるプログラム

### ■SDGsの取り組み

中学入試問題にもテーマとして取り上げられているのが「SDGs」です。SDGsとは、2030年に向けた「持続可能な世界を実現するための開発目標」で、17のゴール（図②参照）、169のターゲット、232の指標が定められた、世界が合意した国際目標です。「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っており、世界中の国が当事者として行動することが必要です。

SDGsを学ぶことは、地球規模の問題について考え、他者・他国と協働し、行動を起こすことにつながりますが、経験したことのない課題、正解のない問題を解決するためには、知識があるだけでは困難です。

例えば、今年10月に甚大な被害をもたらした台風を伝える予報で、「これまで経験したことのない」という言葉を何度聞いたことでしょうか。世界経済フォーラム（WEF）による男女平等の度合いを示す「ジェンダー・ギャップ指数」（2018年）で、日本は110位（対象は世界149カ国）。

こうした課題を挙げるまでもなく、17のゴール（テーマ）を学ぶことは、世界や社会とつながり、ま

さに当事者、自分のこととして課題をとらえることにつながります。この学びを通して、調べ、問いを立て、まとめ、発表する力がついていくのです。今、私学の学び方が「探究」型へと変化していることと重なります。

その際の、学びの手段も発露も様々です。

◎関東学院六浦や●立教女学院、●和洋九段女子では、SDGsカードゲームを取り入れた講座を開きSDGsを学んでいます。●東京女子学園の英語部は、プランインターナショナルジャパンのBecause I am a Girlの活動を支援し映画を上映したりや文化祭でパフォーマンスを披露したりしています。先だって行われた第12回日本高校ダンス部選手権で高く評価された●トキワ松学園の作品は、英語の授業（グローバル・スタディーズ）で学んだマララさんに感銘して作った「We are Malala！（私たちはマララです!）」。

◎桐光学園は、来年度からSDGsをテーマにした授業などを展開していくために、SDGsを「自分ごと」として考えようと、中学生・高校生にとって切実な問題と考えられる17の目標を「桐光SDGs」として設定し、来年に向けて生徒自身が、「何をどのように学ぶのか」を考えています。

もとより、SDGsの「4.質の高い教育をみんなに」にあたるESD（持続可能な開発のための教育）を実践したり、ユネスコスクールとして活動したりする私学もありました。独自のプロジェクト活動に取り組んできた学校もあります。2019年入試で「湘南学園



〈図②〉



「期間中は、うまくいかないままでもよいとさえ思っています。良い種を生徒の心に植えることができれば、この先、必ず芽を出します」（●巣鴨・国際教育部部長岡田英雅先生。巣鴨サマースクールにて）



●相模女子大学の高校生が「かなみはら」でマーガレット・タイムを取り組みを発表した。

ESD入試)を導入した◎湘南学園は、「将来の持続可能な社会の担い手であると同時に、自分らしく幸せに生きていける力や人間性を育む」教育を「湘南学園ESD」と定義しています。

2014年度に始まったスーパーグローバルハイスクールは、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を目的とし、指定校がそれぞれに目指す「グローバル人材」を育てるために課題を設定し、探究的な学習を進めています。

初年度は、●佼成学園女子、●品川女子学院、●昭和女子大学昭和、◎渋谷教育学園渋谷、◎渋谷教育学園幕張、◎公文国際、◎玉川学園など全国で54校が指定されました。期間は5年間(今年度より3年。2年延長可に制度変更)。現在の指定校の課題研究テーマには、●富士見丘「サステナビリティから創造するグローバル社会」、◎青山学院「多様性の受容を基盤とした『サーバントマインド』を持つグローバル・リーダー育成」などが見られます。富士見丘では、サステナビリティ基礎「グローバルワークショップ」や各種の国際フォーラムに参加したり、高大連携プログラムが実施されたりしています。また英語力の涵養にも熱心です。

## ■海外研修

海外研修は、近年は語学研修の域に止まらず、訪問先も多彩で、現地の大学による研修や講義への参加、キャンパスツアー、同年代同士の交流、フィールドワーク、企業訪問、ボランティアなどを体験するものへと変化しています。

●獨協は、以前からアメリカのイエローストーンサイエンスツアーを実施(高1・2の希望者。夏休み)。キャンプ泊も経験しながら、イエローストーンの植生や地質について学びます。同校はドイツスタディーツアー(中3~高2の希望者)でも環境教育施設を訪問します。◎関東学院大学六浦の「アラスカ研修」(中3~高3。希望者)は、オーロラ研究者のレクチャーとオーロラ観測、アラスカ大学地球物理学研究所での研修も受けることができます。

アジアを研修先とする学校も少なくありません。

●聖学院は、タイ北部の村を訪問(中3~高3希望者。12月)。◎順天はタイ・チェンマイのNGOやストリートチルドレンのシェルター視察、王立学校での交流。●清泉女学院はベトナムスタディーツアー(高1・2の希望者。8月)で聖心侍女修道会が運営する「ラブ・スクール」でボランティア活動。●昭和女子大学昭和は、中1でアジアディスカバリーを実施。シンガポールとマレーシアを訪問し、多民族国家の言語・宗教を肌で感じています。

●芝の「ベトナム研修」(高1・2の希望者。冬)は、英語を使わず、上下水道も整備されていない自給自足の村での生活を体験します。このベトナム研修へ行った生徒が、今年4月に●東洋英和女学院で行われた「外国語教育・国際教育発表会」に招かれ、その体験を披露しました。鶏の断末魔で目が覚めたこと、泥沼で魚を獲ったこと、雨水をトイレやお風呂に使うこと、言葉も遊びも違う子どもたちとの生



●神田女学院の海外留学体験記「リュウガク物語」や●品川女子学院の卒業生の今を伝える「白バラ」のような体験談の冊子も後輩たちを励ましている。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、◎=共学校



「心を動かす」というコミュニケーションの本質を身につけてもらいたいからです」(◎東京電機大学中高・情報理工科主任山住直政先生。広報誌「Petit De-Chu」で、なぜ情報教育に学びあいを大切にしているかと問われて)



活・・・。そんな経験をユーモアを交えての発表でしたが、「本当の豊かさとはなんだろう」と考えたとも吐露しています。この発表会には、●立教女学院の留学生のスピーチや、●白百合学園の高校生によるアメリカ夏期短期留学やフランスの高校との短期交換留学の報告、フランス語による寸劇もありました。

アメリカは研修先として非常に多く選ばれます。ここでは紙面の都合で学校名は省きますが、イエール大学、オックスフォード大学、マサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学、スミスカレッジ（女子大）などを訪問。学術体験や学生との交流、女性リーダーの講演などは刺激的で、帰国後劇的に変化する生徒も少なくないといえます。

一方、国内での研修、学びを充実させていく動きもあります。

早い段階からイートン校サマースクールに参加してきた●巣鴨が、3年前に夏の蓼科でSugamo Summer Schoolをスタートさせたのは、できるだけ多くの生徒にイートン校サマースクールのような経験をしてもらいたいとの願いから。イギリス人グローバルエリートが講師となってオールイングリッシュで行われるものですが、参加者は言葉以上の収穫を得ているようです。

●東洋英和女学院の中高生有志が活動しているTEAM (Toyo Eiwa Activities for Myanmar) は、ミャンマーを研究対象とし、ミャンマーや途上国の抱える問題への支援や協力のあり方を「自分たちで調べ、考え、発表し、行動を起こす」ことを基本姿勢として活動しています。

●大妻嵐山は、学校全体で国際派の生徒を育てる「大妻グローバルリンクス」という教育システムを構築し、国際理解教育の向上に取り組んでいます。そのひとつが「グローバルリンクス講演会」です。よりよく生きていくための力（同校では「最強女子力」と呼んでいます）に気づいてもらいたいとの願いから開催されて

おり、海外で活躍している女性の経験や仕事観を聞き、「限界を決めない」という前向きな気持ちを抱く機会にもなっています。

## ■模擬国連

1チーム2人で、ある国の大使として模擬国連会議に参加し、課題解決の議論、交渉を行う「模擬国連」を「教育のフルコース」と表現した人がいました。

課題解決への努力、リサーチの重要性、話し合いの大切さを学ぶことが魅力でもあり、経験者の多くは進路を考えるきっかけにもなっているようです。「全日本高校模擬国連大会」では、これまで、児童労働、食料安全、移民、サイバーセキュリティなどが議題として討論されてきました。

先だって、『高校生の模擬国連―世界平和につながる教育プログラム』（全国中高教育模擬国連研究会編。山川出版社）が出版されました。模擬国連に携わってきた9人の先生方が模擬国連に必要なスキルやノウハウを、また高校生や経験者である大学生たちが模擬国連の魅力を綴っています。

## ■ラウンドスクエア

IB機構をつくったドイツの教育者クルト・ハーン氏が1966年に設立した国際的私立学校連盟「ラウンドスクエア」に加盟し、世界各国の高校生と交流している学校もあります。現在、加盟しているのは、◎玉川学園、◎八雲学園、◎啓明学園、◎工学院大学附属。ラウンドスクエアのメンバー校は世界50カ国180校以上にのぼり、高校生たちが国際社会で活躍できる能力の獲得を目標に、ディスカッション・研究発表・奉仕活動・学習活動などに取り組んでいます。

ラウンドスクエアの基本理念は、Internationalism（国際理解）、Democracy（民主主義の精神）、



『高校生の模擬国連―世界平和につながる教育プログラム』（山川出版社）





10月にインドで行われたラウンドスクエア世界大会に参加した◎啓明学園の生徒たち。

Environment (環境問題に対する意識)、Adventure (冒険心)、Leadership (リーダーシップ)、Service (奉仕の精神)。これらは色あせない、むしろ世界的な課題として、より強く意識されているテーマといえるでしょう。

## 生徒を支える体制

独立した部署・組織が、グローバル教育や帰国生教育を担う学校も増えてきました。

帰国生を受け入れて60年になる●桐朋女子のグローバル教育は筋金入りです。約25カ国からの帰国生が学んでいる同校には、「国際教育センター」があり、帰国生受け入れに関することや、「デュアル・ランゲージプログラム (DLP)」の三本柱の一つ「高度な英語発信の実践」を担当しています。桐朋女子のグローバル教育は、異文化サマーキャンプやアメリカ研修、ニュージーランド・ターム留学など多彩な体験プログラムと、DLPによる英語4技能の伸長で、異文化理解とコミュニケーション能力を身に付けることを目指しています。

●海城は、高校募集を廃止し、帰国生入試(受け入れ)をスタートしたと同時に、「グローバル部」を設置。高校からの入学生による刺激ではなく、帰国生の入学で学内の多様化を推進する道を選んだ経緯が思い起こされます。●巣鴨「国際教育部」、●聖学院「21世紀型国際教育部」、●鷗友学園女子「国際

理解教育係」、●大妻「進路・グローバル教育部」、●共立女子「国際交流部」、●品川女子学院「国際交流・グローバル教育部」、●田園調布学園「グローバル教育推進委員会」、●東洋英和女学院「海外留学支援室」、◎順天「国際部」、◎青稜「国際教育部」など枚挙に暇がありません(部署名はいずれも2018年11月現在)。

海外大学や留学を進路の視野に入れる生徒へのフォローも、こうした部署が担っています。◎啓明学園などが加盟している、海外協定大学推薦制度(UCAA)のような制度を利用する学校もあります。

名称や取り組みは様々ですが、目指すところは「生徒のグローバルマインドの養成」、「違いを超えて繋がる力の育成」であることは間違いありません。

## 未来を生きる子どもたち

グローバルに生きるとは、何も海外で活躍することだけではありません。ましてや、英語がわかるということだけでもありません。世界の問題に気づき、解決策を考え、人々と協働することが、グローバルに生きるということではないでしょうか。そのために何が必要かを考え作られているのが、グローバル教育です。

中高6年間に用意されているプログラムがもたらす経験や学びが、一人ひとりの心に、グローバルの種を蒔いてくれるでしょう。その種は、海外研修、留学、英語、音楽、美術、スポーツなど、たくさんあります。どの種から芽が出てもいいし、違う種類の芽が出るかもしれません。いつ芽が出るかも同じではありません。ただし、芽を幹に育てる源として、知識や思考力、探究心、創造力、発信力が必要です。キャリア教育や教科教育など、あらゆる学びと連携してこそそのグローバル教育は、これからますます重要性を増し、進化していくでしょう。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、◎=共学校



「芸術はとても大事です。中高を通じて文科省の配当時間よりも多くを充てています」  
 (●麻布・校長平秀明先生。「私学の魂」インタビューより)